

2014年度秋学期授業アンケート総評

教育・研究推進センター所長

山 本 寿

2014 年度においては前年度に引き続き、全科目を対象として授業アンケートが実施され、全学的な経年比較が可能になった。その結果、秋学期では、次の 2 点において注目すべき変化が見られた。

1. 全体の回答率が 80.1%から 80.4%へ 0.3%上昇した。特に、昨年度、回答率が低かった (67.3%) 「社会システム学科科目」において、約 6.9%もの上昇が見られた。逆に、「表象文化学部共通科目」において 7.3%、「現代こども学科科目」において 6.6%の低下が見られた。残りの科目区分における変動は 5%未満であった。

2. 全体の授業時間外学習時間 0.665 (h/w) については、評点分布を見る限り、1 時間以上の分布割合が増加し、30 分以下が減少しているので、全体的に増加したと考えられる。2013 年度の評点を時間に換算して、期待値に換算すると 0.637 (h/w) であり、確かに 0.028 h/w = 1.68 min/w と微増していた。

その理由は、アンケートの質問の「授業時間外学習」の意味を「自宅学習」と誤解しないよう指導した学科が増えたことにもよるであろう。まだ、正確な実態数値への是正期間にあると考えられる。例えば、生活科学部共通科目の授業時間外学習時間が相変わらず最長でありながら、さらに 2013 年度に比べて「3 時間以上」の分布割合が 3%以上増えたが、その主な理由は、この学部における長いゼミの活動実態時間がアンケートに反映されるようになったからだろう。

いずれにしても、まだまだ全体の学習時間は絶対的に短い。問題の本質は、世界的に見て、通常の講義科目に対する予習復習時間が短すぎることであって、対策としては、教員の教育姿勢と工夫ならびに学内学習環境の改善が求められる。